

超音波洗浄機 DYNASHOCK®シリーズ

保証書付

WDX- 600- II

— 取扱説明書 —

- ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られる場所に大切に保管してください。



本物電子株式会社®

はじめに

このたびは超音波洗浄機 DYNASHOCK シリーズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本装置は、水や溶剤に超音波の振動を加えることで、金属部品など様々な洗浄物の汚れを効果的に落とすことができる洗浄機です。

ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、安全についての注意事項を熟知してから正しくお使いください。

《目次》

| | ページ |
|-------------------------|-----|
| 1. ご使用の前に | 2 |
| 2. 安全上のご注意 | 3 |
| 3. 本装置の概要 | 8 |
| 4. 梱包品の構成 | 9 |
| 5. 各部の名称とはたらき | 10 |
| 5-1. 発振器正面 | |
| 5-2. 発振器背面 | |
| 6. 設置・接続方法 | 12 |
| 6-1. 発振器の設置と電源コードの接続方法 | |
| 6-2. 振動子ユニットの設置方法 | |
| 6-3. 振動子コードの接続方法 | |
| 7. 使用方法 | 16 |
| 7-1. 準備 | |
| 7-2. 発振器の基本操作 | |
| 8. I/O 機能 | 18 |
| 8-1. リモートコントロール機能 | |
| 8-2. 異常出力機能 | |
| 9. ヒーター付洗浄槽の取り扱い | 19 |
| 10. トラブルシューティング | 21 |
| 10-1. 異常表示機能 | |
| 10-2. その他症状のトラブルシューティング | |
| 11. 仕様 | 24 |
| 12. アフターサービス | 29 |

1. ご使用の前に

本装置のご利用前に、電波法により予め地方総合通信局に添付の書類にて高周波利用設備の申請を行い、許可を得た上で使用してください。詳細については、添付書類の『高周波利用設備の申請手続きについて』をご覧ください。

1-1. 安全にご使用いただくために

1-1-1. 本書および本装置に使用している図記号について

安全に関わる注意事項を、その危険の大きさの程度によって、次のように分類して説明しています。

| | |
|--|---------------------------------------|
|  危険 | 取り扱いを誤った場合、死亡もしくは重傷となる事故を招く恐れが特に高いもの。 |
|  警告 | 取り扱いを誤った場合、死亡もしくは重傷を負う可能性が想定されるもの。 |
|  注意 | 軽傷を負う可能性が想定されるか、または物的損害の発生する恐れのあるもの。 |

1-1-2. 図記号について

本書および製品では、お守りいただく内容や禁止、注意事項について、次の図記号を使用しています。

| | | | |
|---|---------------------------|---|---|
|  | 「してはいけないこと」を意味しています。 |  | 製品に、このマークが表示されている場合、本取扱説明書の該当箇所を参照していただく必要のあることを示しています。 |
|  | 「守らなければならない指示事項」を意味しています。 |  | 分解禁止 |
|  | 空焚き禁止 |  | 感電危険 |
|  | 「アースを確実に取り付ける」ことを指示しています。 | | |

2. 安全上のご注意

人への危害や故障、火災等の損害を未然に防ぐため、重要な内容を記載しています。
本書をよくお読みのうえ、注意事項を守ってご使用ください。



| － 内部に高電圧部分があります － | |
|-------------------|--|
| 分解禁止 | 本装置は、絶対に分解・改造はしないでください。 火災、感電、けがの原因になります。 |
| 禁止 | ファンの吸い込み穴や排気穴に指や、ピンや工具などの金属物や異物を入れ ないでください。感電、けがの原因になります。 |

| － 本装置は防爆構造ではありません － | |
|---------------------|---|
| 禁止 | 引火性ガスや爆発性ガスが発生する恐れのある場所では絶対に使用しない でください。火災や爆発の恐れがあります。 |

| － 強力な超音波の放射があります － | |
|--------------------|---|
| 禁止 | ペースメーカーを使用している人は、絶対に本装置を操作したり、本装置の近く で作業をしないでください。 |

| － アース接続が必要です － | |
|----------------|--|
| | アースは、外れないように確実に接続してください。 故障や漏電の時に感電、けがの原因になります。 |
| | ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線には、絶対に接続しないでください。 火災や爆発の恐れがあります。 |



| | |
|--|---|
|  | <p>電源電圧は定格電圧±10%以内の電圧でお使いください。定格外の電源電圧での使用は故障や火災の原因になります。</p> <p>振動子コード、電源コードには高電圧、大電流の電気が流れているため端子接続部およびコネクタ接続部はしっかりしめてください。感電や火災の原因になります。</p> |
|  禁止 | <p>振動板タイプの振動子ユニットでは、振動子に高周波高電圧・大電流が流れているため、振動子電極部およびケーブル配線接続部を手で触れると大変危険です。絶対に触らないでください。</p> <p>振動子コードの長さ変更、他種ケーブル使用、圧着端子取付け等の改造は行わないでください。高周波高電圧・大電流が流れているため故障・発火の原因になります。</p> <p>振動子ユニットの超音波輻射面に穴が開いた状態では、絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になります。 ※ 超音波洗浄機は、超音波輻射面が、強力な超音波振動とキャビテーションの作用に長時間さらされることにより、エロージョンと言われる金属の表面がポロボロになったり、穴が開く現象が起こります。</p> <p>発振器は酸性やアルカリ性などの腐食性ガスが発生する場所に設置しないでください。腐食により発振器の寿命を縮め故障の原因になります。</p> <p>本装置に使用する洗浄液は、引火性・可燃性のある液体を使用しないでください。</p> |
|  空焚き禁止 | <p>洗浄液がない状態(空焚き)で、本装置を絶対に動作させないでください。振動子が故障します。</p> <p>※液深は、超音波輻射面より 100mm以上でお使いください。</p> |

 注意

| | |
|--|---|
|  | <p>発振器は使用周囲温度 5～40℃以内で使用してください。また、室内の環境温度が定格温度 5～40℃内でも設置条件により発振器近傍ではそれ以上の温度になる事があるので、温度計でチェックして定格温度範囲内に収めてください。仕様外での使用は寿命を縮め、故障の原因になります。</p> |
| | <p>振動子ユニットの使用可能液温は、投込タイプは 5～80℃、振動板／槽タイプは 5～100℃です。範囲外での使用は振動子の寿命を縮め、故障の原因になります。</p> |
| | <p>電源を接続する際は 1 台あたり 15A 以上のブレーカーを介して、電源を供給してください。また、漏電ブレーカー感度電流は 1 台あたり 15mA 以上を使用してください。</p> |
| | <p>本装置が接続されているブレーカーは、そのことが分かるような表示をし、本装置に異常があった時はすみやかに遮断できる状態にしておいてください。</p> |
| | <p>発振器の前面および背面の通気口をふさがないでください。 また、前面および背面から 150mm以上のすき間を空けて設置してください。装置内部の温度が上昇し、火災や故障の原因になります。</p> |
| | <p>洗浄物が振動子ユニットの超音波輻射面に直接触れないようにしてください。直接触れると、洗浄効率が低下するだけでなく、故障の原因となります。 ※洗浄物の位置は振動輻射面より 50mm以上でお使いください。</p> |
| | <p>発振器は防水構造ではありませんので、液体がかからない場所に設置してください。発振器故障の原因になります。</p> |
| <p>発振器と振動子ユニットは、セットで調整されています。 発振器に接続する振動子ユニットは、発振器の背面に貼られている ID ラベルに記載されている番号と同じID番号の振動子ユニットを接続してください。間違った接続は誤動作や故障の原因となります。</p> | |
|  禁止 | <p>振動子ユニットに直接触れる液に、酸性液 (PH6 以下) を使用しないでください。振動子ユニットの故障の原因となります。 酸性液 (PH6 以下) をご使用の際は、二重槽構造としてください。なお、二重槽側で使用する液が洗浄槽に飛び散ったり、垂れたりした場合は速やかに排水し、洗浄槽をきれいに洗浄してください。 振動子ユニットに直接触れる液に、強アルカリ性の液を使用する場合は、振動子ユニットに影響が無いことを確認した上でご使用ください。</p> |
| | <p>発振器は通気のない密閉された箱に入れて使用しないでください。装置内部の温度が上昇し、火災や故障の原因になります。</p> |

—その他の注意事項—

【振動子コード・電源コードの設置、使用上に関する注意事項】

- 振動子コード、電源コードなどの接続作業は必ず1次側電源を切ってから行ってください。
- 振動子コード、電源コードの接続部は必ず湿気のない乾燥状態の維持できる場所に置いてください。
- 電源コードは、タコ足配線や電線のつなぎ合わせはしないでください。感電や火災の原因になります。
- 振動子コード、電源コードは防水構造ではありませんので、液体がかからない場所に設置してください。
- 振動子コード、電源コードは付属のもの以外は使用しないでください。
- 振動子コード、電源コードは強い力を加えたり、ねじった状態で使用しないでください。
- 振動子コード、電源コードは極端に曲げたり、小さく束ねたりしないでください。ノイズ放射やケーブル発熱の原因になります。

【発振器の設置、使用上に関する注意事項】

- 発振器は、ほこり・ちり・ミスト等の発生が少ない場所に設置してください。発振器の通気口がほこり・ちり・ミスト等にふさがれて通気冷却能力が低下し、装置内部の温度が上昇し、故障の原因になります。
- 発振器は周囲湿度 5～80%以内で、特に水滴がかからない湿気のない場所に設置してください。発振器の寿命を縮め、故障の原因になります。
- 発振器は直射日光の当る場所や熱源の近くには置かないでください。装置内部の温度が上昇し、故障の原因になります。
- 発振器ケースの通気口は定期的にゴミの付着を除去してください。通気口へのゴミ付着は放熱能力を低下させ、装置内部の温度上昇による故障の原因になります。
- 発振器を周囲温度が高い場所に設置する場合は、発振器をボックスに入れてクーラーなどで冷却し、発振器内部の温度が上昇しないようにしてください。
- 発振器は十分に強度をもった水平で振動のない場所に設置してください。発振器の寿命を縮め故障の原因になります。
- 発振器は3台以上積み重ねて設置しないでください。
- 本装置は屋内仕様となっておりますので、必ず屋内で使用してください。

- 本装置の点検、メンテナンスをするときは必ず、電源スイッチを OFF にして1次側電源供給を遮断してください。高電圧部があるため、感電する恐れがあります。

【振動子ユニットの設置、使用上に関する注意事項】

- 振動板タイプの振動子ユニットは、振動素子、配線部が防水構造ではありません。液体が絶対にかからない場所に設置し使用してください。
- 振動子には高電圧の電荷が保持されている事があるので、振動子ユニットの設置時またはメンテナンスを行う前には必ず振動子プラス／マイナス端子を一時的に短絡させ、放電させてください。
- 振動子ユニットや重い被洗浄物を持ち上げたり、運搬したりするときは、2人以上で行なうか、もしくは、安全な吊り具を使用してください。

【I/O 端子台への信号線の設置、使用上に関する注意事項】

- リモートコントロール用信号線および異常検出用信号線は、それぞれ10m以内のシールド線を使用してください。ノイズによる誤動作の原因になります。
- 発振器の電源コードおよび振動子コードの近くに、信号線を一緒にまとめないでください。発振器および他の制御系にノイズが入り誤動作の原因になります。
- リモートコントロールによる外部制御は、1回路で1台を制御するように接続してください。複数台を並列や直列に接続して使用すると、誤動作や故障の原因になります。

【一般的な注意事項】

- 発振器、振動子ユニット、コードなどに濡れた手で不用意に触らないでください。
- 超音波洗浄中に、洗浄槽の中に不用意に手をいれしないでください。
- 洗浄液は、汚れた状態で放置しない。汚れが超音波輻射面に堆積し、故障の原因になります。
- 本製品を保管する時は、直射日光を避け、温度-15℃～60℃、湿度 10%～85%の結露のない状態で保管してください。
- 発振器および振動子ユニットに付着した水分、洗浄液や汚れは、乾燥したウェスで拭き取ってください。

3. 本装置の概要

以下に、本装置の主な機能と特徴を説明します。

| 主な機能と特徴 | 操作方法参照 |
|---|-----------------|
| <p>■ダイナショックモジュレーション(DM)方式 DM(DYNASHOCK MODULATIONの略)方式とは、同一振動子から2周波を同時発振する発振方式です。DM変調度の設定により2つの周波数の超音波パワー比率を任意にコントロールすることができます。これにより、ソフトな洗浄からハードな洗浄まで、用途に合わせた超音波発振が選択できます。</p> <p>DM 変調度は発振器正面パネルの DM 値 UP/DOWN スイッチにより、0～100%まで設定可能です。</p> | 7-2項 (P17) |
| <p>■スイープ(Sweep)機能 DM 発振方式にスイープ機能を付加する事により、更に均一な超音波を発生します。発振器正面パネルの操作により、スイープ機能のあり/なしが設定できます。</p> | 7-2項 (P17) |
| <p>■出力調整機能 発振器正面パネルのパワー設定つまみにより、出力電力を 0～100%まで調整できます。これにより、洗浄用途に合わせた最適な電力設定が可能です。</p> | 7-2項 (P17) |
| <p>■周波数自動追尾機能/定電力制御機能 洗浄液中での超音波発生状態は、液深、液種、減圧状態、被洗浄物などの負荷変動や電源電圧の変動によって大きく変動します。本装置内蔵の周波数自動追尾機能および定電力制御機能により、これらの変動に対して、最適な周波数と安定した出力電力で発振し、超音波発生の安定化を図っています。</p> | — |
| <p>■電力表示機能 発振器正面パネル表示画面に、出力電力[W]を表示します。これにより、日々の超音波管理に役立ちます。</p> | 5-1項 (P10) |
| <p>■異常表示機能 異常発生時、発振器正面パネルの表示画面に異常原因がわかるエラーメッセージを表示します。これにより、トラブル要因が明確になり迅速な解決に役立ちます。</p> | 10-1項 (P21,P22) |
| <p>■I/O機能</p> <p>1)リモートコントロール機能 遠隔地からの操作により、超音波を発振/停止することができます。</p> <p>2)異常出力機能 本装置の異常発生時、遠隔地に異常を知らせることができます。</p> | 8項 (P18) |

4. 梱包品の構成

本シリーズは、主に発振器と振動子ユニットから構成され、振動子ユニットは投込タイプ、振動板タイプ、槽タイプ、ヒーター付槽タイプの4種類があります。商品は下記のように発振器標準セットと選択されたタイプの振動子ユニットセットから構成されます。

《梱包品に含まれるもの》

【発振器標準セット】

- 発振器…………… 1台
- 電源コード(3.5m) …… 1本
- 取扱説明書(保証書付き)… 1冊
- 高周波利用設備申請書類… 1式
- 出力コード 3.5m…………… 1本 (※1)

※1. 槽タイプ、ヒーター付槽タイプの振動子ユニットとセットの時は、付属しません。

別売り部品 : 振動子コード接続端子台

【振動子ユニットセット】

下記①～④のいずれかを選択

①投込タイプ

- 投込タイプ振動子ユニット…1台
- ※ 振動子ユニットコード長 2.5m(ブレード部 2m)

②振動板タイプ

- 振動板タイプ振動子ユニット…1台
- ※ 振動子ユニットコード長 3.5m(標準)
- 振動板取付けパッキン… (標準品に付属 ※2)
- 振動板取付け補助枠… (標準品に付属 ※2)
- 振動板取付けネジ… (標準品に付属 ※2)
- ※2. 特注品は別売りとなります。

③槽タイプ

- 槽タイプ振動子ユニット……………1台
- ※ 振動子コード長 3.5m
- フタ……………1個
- 別売り部品 : 洗浄カゴ(KG10F)

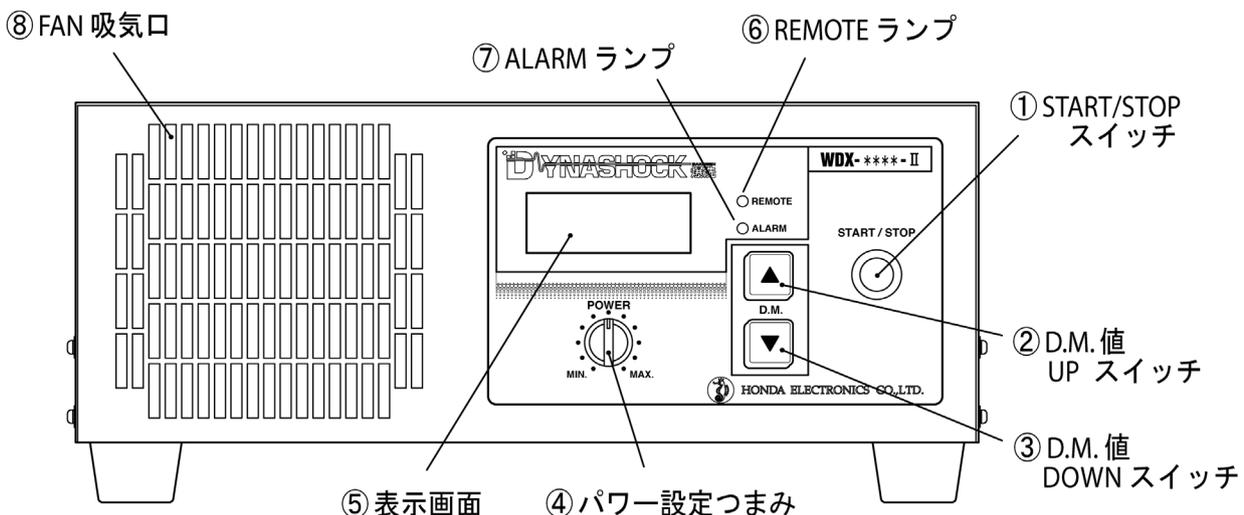
④ヒーター付槽タイプ

- ヒーター付槽タイプ振動子ユニット…1台
- ※ 振動子コード長 3.5m
- フタ……………1個
- 別売り部品 : 洗浄カゴ(KG10F)

5. 各部の名称とはたらき

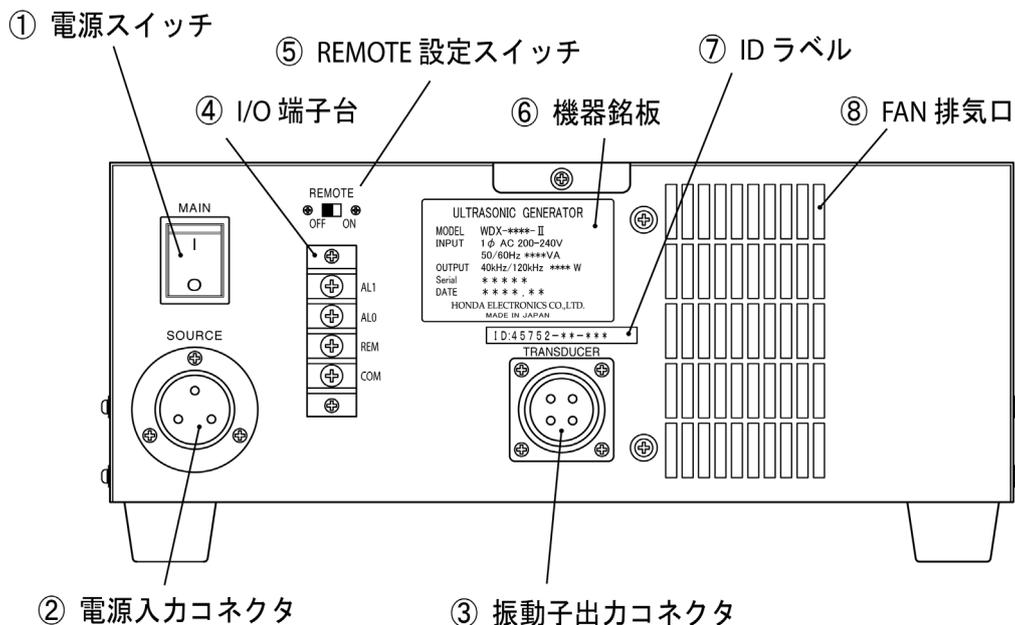
5-1. 発振器正面パネル

| No. | 名称 | 機能 |
|-----|-----------------|---|
| ① | START/STOP スイッチ | 超音波を発振／停止するスイッチです。 1度押すと超音波が発振します。再度押すと超音波が停止します。 超音波が発振中、スイッチ内蔵のランプが点灯します。 リモートコントロール機能が無効(発振器背面パネルの「REMOTE 設定スイッチ」が OFF 状態)の時に、START/STOP スイッチによる超音波の発振／停止が可能です。 |
| ② | D.M.値 UP スイッチ | DM 値(0~100%)を現在値から増加するスイッチです。 1回押すごとに DM 値が 1%ずつ増加します。1秒以上押し続けると DM 値が速く変化します。 |
| ③ | D.M.値 DOWN スイッチ | DM 値(0~100%)を現在値から減少するスイッチです。 1回押すごとに DM 値が 1%ずつ減少します。1秒以上押し続けると DM 値が速く変化します。 |
| ④ | パワー設定つまみ | 出力電力を設定するボリュームつまみです。 電力可変範囲は 0~100%です。 |
| ⑤ | 表示画面 | 出力電力[W]と DM 値[%]を表示します。 異常発生時は異常原因がわかるエラーメッセージを表示します。 |
| ⑥ | REMOTE ランプ | リモートコントロール機能が有効(発振器背面パネルの「REMOTE 設定スイッチ」が ON 状態)の時に点灯するランプです。 |
| ⑦ | ALARM ランプ | 異常発生時、点灯するランプです。 |
| ⑧ | ファン吸気口 | 発振器内部の熱を排気冷却するためのファン吸気口です。 通気のため前面空間は 150mm 以上確保してください。 |



5-2. 発振器背面

| No. | 名称 | 機能 |
|-----|---------------|--|
| ① | 電源スイッチ | 発振器の電源 1 次側を ON/OFF する主電源スイッチです。電源電流過大時に保護遮断する機能を兼ねています。 |
| ② | 電源入力コネクタ | 付属の電源コードを接続して電源電圧を供給する入力コネクタです。電源電圧は機器銘版の定格入力表示値±10%以内の電源電圧を供給してください。 |
| ③ | 振動子出力コネクタ | 付属の振動子出力コードを接続して振動子に電力を供給する出力コネクタです。発振器に接続する振動子ユニットは発振器IDラベル番号と同一ID番号の振動子ユニットを接続してください。 |
| ④ | I/O端子台 | (1)REMOTE 端子 信号線を接続して、外部から超音波の発振/停止をリモートコントロールする端子です。 ・REM 端子-COM 端子間ショート: 超音波発振 ・REM 端子-COM 端子間オープン: 超音波停止 |
| | | (2)ALARM 端子 信号線を接続して、外部に異常を知らせるための端子です。 ・正常時: AL1 端子-AL0 端子間ショート状態 ・異常時または電源 OFF 時: AL1 端子-AL0 端子間オープン状態 |
| ⑤ | REMOTE 設定スイッチ | REMOTE 設定スイッチを ON にすると REMOTE 端子によるリモートコントロール機能が有効になります。この時、発振器正面パネルの START/STOP スイッチによる操作が無効になります。 |
| ⑥ | 機器銘版 | 型式、定格入力、定格出力、機械番号を表示した機器銘版です。 |
| ⑦ | IDラベル | 発振器に接続可能な振動子ユニットID番号を表示したラベルです。 |
| ⑧ | ファン排気口 | 発振器内部の熱を排気冷却するための通気口です。排気冷却のため背面空間は 150mm以上確保してください。 |



6. 設置・接続方法

6-1. 発振器の設置と電源コードの接続方法

1. 発振器は、十分に強度のある、水平で振動のない安定した場所で、水滴がかからない湿気のない場所に置きます。

発振器の設置環境条件



- 周囲温度が 5～40℃以内の場所で、湿度 80%以下の結露のない場所
 - 発振器の前面および背面の通気を妨げない場所
- ※ 前面、背面とも 150mm 以上のすき間をあけてください。

2. 電源コードをブレーカー側(単相交流 200V～240V、50/60Hz)に接続します。

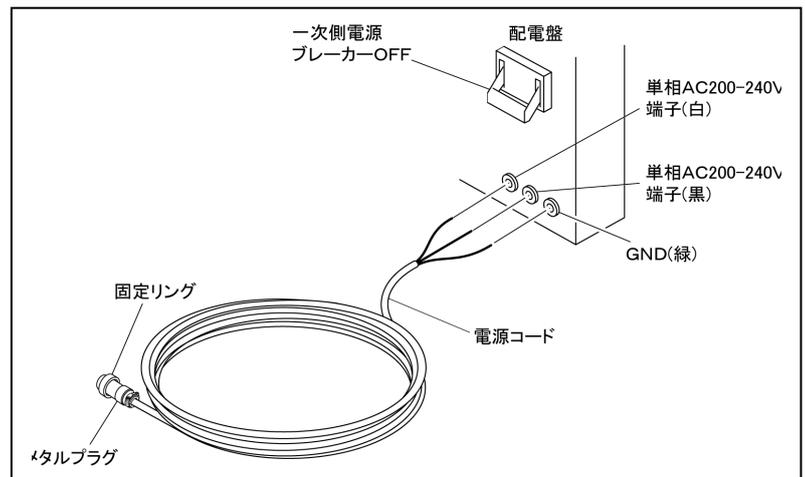


- 感電の危険を避けるため、接続前に必ずブレーカーの電源供給を遮断し、発振器の電源スイッチが OFF になっていることを確認してから作業を行ってください。
- 本装置 1 台あたり 15A 以上のブレーカーを介して、電源を供給してください。また、漏電ブレーカーの感度電流は、1 台あたり 15mA 以上を使用してください。

■電源コードのアース・電源への接続

付属の電源コードの接続極性は以下のようにしております。

| | |
|----|-----------|
| 緑線 | アースに接続 |
| 白線 | 単相交流電源に接続 |
| 黒線 | 単相交流電源に接続 |



3. 電源コードのプラグを発振器背面の電源コネクタに差し込み、固定リングが止まるまで、しっかりねじ込みます。
4. 電源コネクタクランプ金具をプラグの固定リングに当て、固定リングが外れないようにネジで固定します。

※本装置を別の装置内に組み込む場合、電源コネクタクランプの取り付けは不要です。

6-2. 振動子ユニットの設置方法

■振動子ユニットの設置前作業

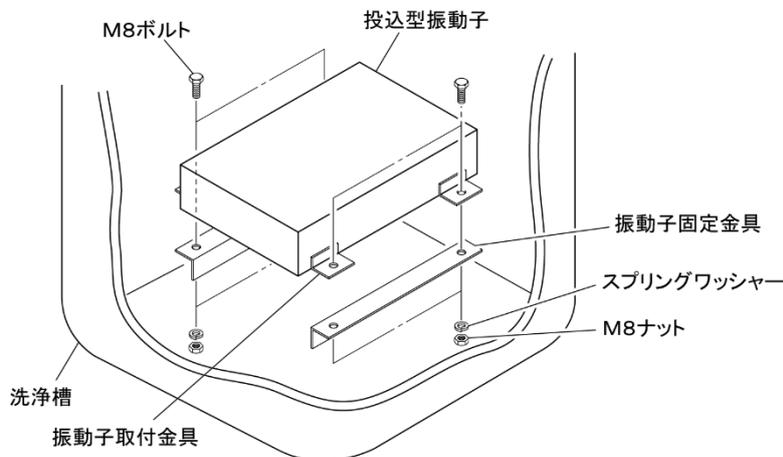
振動子には高電圧の電荷が保持されている事があるので、振動子ユニットの設置時には必ず振動子プラス端子とマイナス端子を一時的に短絡させ、放電させてから、以下の各振動子ユニットの設置手順に従ってください。

【投込タイプ振動子ユニットの設置方法】

取り付け例

1. 投込タイプ振動子ユニットの重量と大きさに対し、十分な強度と大きさをもつ洗浄槽を用意します。
2. 洗浄槽に振動子固定金具を取り付けます。
3. 振動子ユニットの振動子取付金具と振動子固定金具の間(他に振動子ユニット底部で、金属同士が触れるおそれのある部分があれば、その部分も含む)に、振動による金属間の摩耗を避ける為、テフロン樹脂などのクッション材をいれます。
4. 振動子ユニットを、クッション材を介して固定金具に乗せ、4カ所の固定用の穴にステンレス製(※1)のM8ボルトを通し、スプリングワッシャーとナットで、緩まないようにしっかりと固定します。

※1. 取付具(ボルト、スタッド、ワッシャー、ナットなど)は使用洗浄液に合わせて選定してください。



5. 振動子ユニットコードを洗浄槽の外に引き出します。

※ ブレードホース先端の配線引出し口が液に浸りますと、振動子ユニットの中に液が入り振動子故障の原因になりますので、必ず洗浄槽の外へ出るように設置してください。

※ ブレードホースは、超音波輻射面の上部を通らないよう引き出してください。

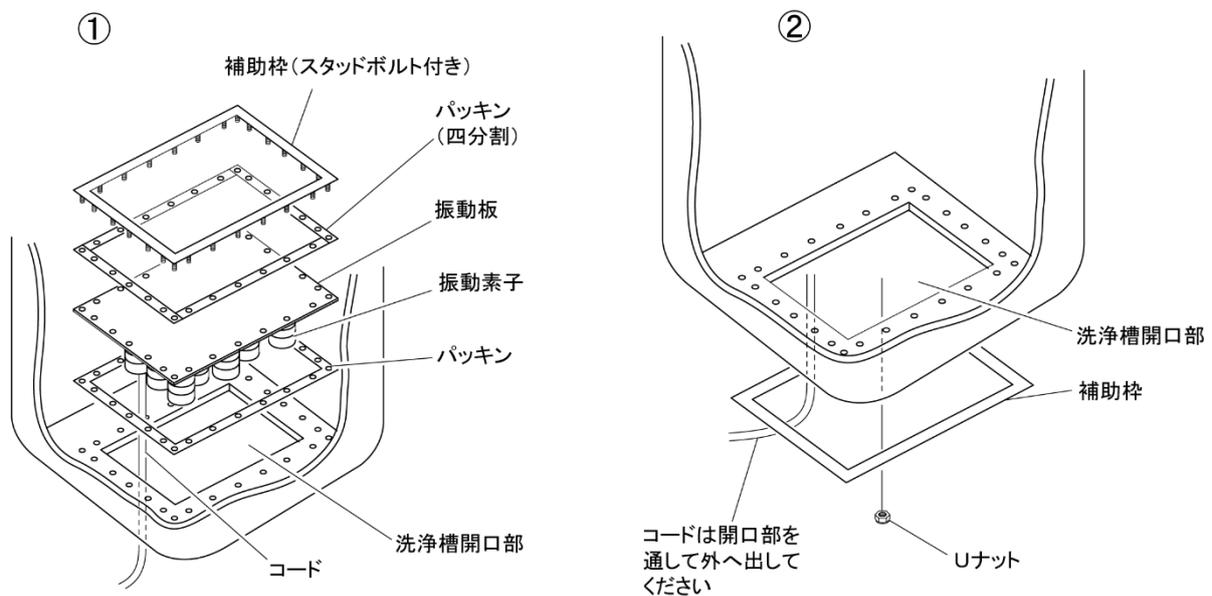
6. 振動子ユニットコードと出力コードを接続します。

※ この接続は、ページ 15(6-3. 振動子コードの接続方法)を参照してください。

【振動板タイプの設置方法】

取り付け例

1. 振動板の重量に対し、十分な強度を持ち、振動板の寸法に合った形状の洗浄槽を用意します。
※ 振動板の持ち運び、設置の際、振動板をたわませないように取り扱いには特に注意してください。振動子接着面が劣化することがあります。
 2. 下図①のように、パッキン、振動板、パッキン、補助枠(スタッドボルト付き)の順に置きます。
 3. 次に図②のように洗浄槽の下側から補助枠を設置し、U ナットで固定します。締付け後、超音波振動によりゆるみが発生し、液漏れの原因となりますので、必ずゆるみ止め処理を施してください。
- ※ 洗浄槽へ取付けの際、使用する洗浄液の種類により接液用パッキンの材質が異なりますので、洗浄液の種類にあった材質のものを選択してください。液に合わない材質を使用しますと液漏れの原因になります。



4. 振動子ユニットコードを洗浄槽の外に引き出し、出力コードと接続します。
※ この接続は、ページ 15(6-3. 振動子コードの接続方法)を参照してください。

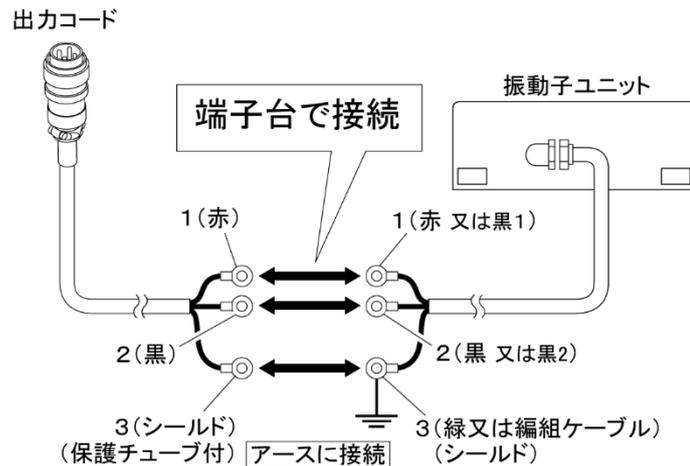
6-3. 振動子コードの接続方法

■出力コードと振動子ユニットコードの接続

※安全のために、接続前に必ず発振器の電源供給を遮断してください。

付属の振動子コードの接続極性は下記のようにしております。

| 付属出力コード | 接続先 |
|----------------------|-------------------------------|
| 赤線(端子番号1) | 振動子ユニット(+) 赤線 又は黒1 (端子番号1) |
| 黒線(端子番号2) | 振動子ユニット(-) 黒線 又は黒2 (端子番号2) |
| 保護チューブ付きシールド線(端子番号3) | 振動子ユニット(シールド) ※アースに接続 |



振動子コード接続時の注意事項



- 付属の出力コードと振動子ユニットコードの中継接続はネジ端子台で確実に接続してください。1 台あたり使用するネジ端子台は定格電圧 600V 以上、定格電流 20A 以上のものを使用してください。
- ※ 高周波高電圧・大電流が流れているため接続の電気的接触が不完全ですと故障・発火の原因になります。
- 接続極性を正しく守って接続してください。
- 付属の出力コードと振動子ユニットコードの接続箇所は、人が容易に触れないように、必ず中継ボックスの中に入れてください。
- ※ 中継ボックスは、難燃性 (V-0) 相当以上の難燃性を有する材料で、工具を使用しないと開けることが出来ない構造のものをご使用ください。

■振動子コードの発振器への接続

1. 振動子コードのプラグを発振器背面の振動子出力コネクタに差込み、固定リングが止まるまでしっかりねじ込みます。

※発振器に振動子ユニットを接続する前に、必ず発振器背面に貼られている ID 番号と振動子ユニットの ID 番号が合っていることを確認してください。異種IDの振動子ユニットを接続した場合、誤動作や故障の原因となります

2. 出力コネクタクランプ金具をプラグの固定リングに当て、固定リングが外れないようにネジで固定します。

※ 本装置を別の装置内に組み込む場合、出力コネクタクランプ金具の取り付けは不要です。

7. 使用方法

本章では、前章での設置・接続が完了している事を前提に基本的な操作方法について説明します。

7-1. 準備

① 洗浄槽に洗浄液を入れます。



- 液深は、超音波輻射面より 100mm 以上でお使いください。
- 振動子ユニットの使用可能液温は、投込タイプは 5～80℃、振動板／槽タイプは 5～100℃です。

② 洗浄物を洗浄槽に入れます。



- 洗浄物の位置は超音波輻射面より 50mm 以上でお使いください。
 - 洗浄物の配置は超音波輻射面に対して出来るだけ均一になるように配置してください。
 - 洗浄物が直接超音波輻射面に当たらないように洗浄カゴ等を使用してください。
- ※ 槽タイプの洗浄ユニットには、別売りで、専用の洗浄カゴをご用意していますので、当社営業所または販売店にご相談ください。

③ 発振器背面の電源スイッチが OFF になっている事を確認し、発振器の電源を供給しているブレーカーを ON にします。

④ 発振器背面の「REMOTE 設定スイッチ」を OFF にしてリモートコントロール機能を無効にします。



- リモートコントロールによる制御を行う時は、正常動作することを確認後、「REMOTE 設定スイッチ」を ON に設定してください。

7-2. 発振器の基本操作方法

- ① 発振器背面の「電源スイッチ」を ON にします。
この時、正面パネルの表示画面が初期画面を数秒間表示します
- ② 「START/STOP スイッチ」を押して、洗浄を開始します。
- ③ 「パワー設定つまみ」を回して超音波出力(W)を調整します。
つまみを右に回すと超音波出力が上がり、左に回すと下がります。
表示画面に現在の出力電力[W]を表示します。出力電力は 0W～最大電力まで設定可能です。
- ④ DM変調度の調整、スイープ(Sweep)機能付加設定など、お好みの設定を行います。
※ これらの調整方法、設定変更方法は、下記に記載の説明をご参照ください。
- ⑤ 「START/STOP スイッチ」を押して、洗浄を停止します。
- ⑥ 超音波洗浄が終了したら発振器背面の電源スイッチを OFF にします。
- ⑦ 電源供給ブレーカーを OFF にして一次側電源供給を遮断します。

DM変調度の調整

「D.M. UP キー」▲ または「D.M. DOWN キー」▼ により、DM 変調度を調整してください。

▲ キーを1回押すごとに DM 値が 1% ずつ上り、▼ キーで下がります。どちらも、1秒以上押し続けると DM 値が速く変化します。

表示画面に現在のDM変調度[%]を表示します。DM 変調度は 0～100%まで設定可能です。

※ DM 方式および DM 変調度についての説明は、3章(P8)参照

DM 変調度の値と、洗浄能力について

DM 変調度 0%: 周波数成分電力比率(28kHz 0%、75kHz 100%)の状態、洗浄物へのダメージを抑えた、ソフトな洗浄が行えます。

DM 変調度 100%: 周波数成分電力比率(28kHz 50%、75kHz 50%)の状態、洗浄物へのダメージを抑えることよりも、汚れを落とす能力を優先させた洗浄が行えます。

スイープ(Sweep)機能の設定

「D.M. UP キー」▲ と「D.M. DOWN キー」▼ を同時に2秒以上押し続けると、DM発振に Sweep 機能が付加された発振モード(DM+Sweep モード)になります。この時、表示画面に“Sweep”と表示します。

再度、「D.M. UP キー」▲ と「D.M. DOWN キー」▼ を同時に2秒以上押し続けると、表示画面から“Sweep”の表示が消え、通常の DM 発振モードになります。

8. I/O 機能

この章では、外部から超音波出力の ON/OFF 制御を行う時や、装置の異常状態を監視する為の異常出力機能を使用する時に必要な内容を説明しています。

8-1. リモートコントロール機能の使い方

- ① 発振器背面にあるI/O端子台の REM 端子と COM 端子に、リモートコントロール用信号線を接続します。信号線は、圧着端子を取り付け、端子台の M4 ネジで固定します。
- ② 発振器背面パネルの「REMOTE 設定スイッチ」を ON にしてください。リモートコントロール機能が有効になります。
- ③ REM 端子-COM 端子間を外部接点(無電圧接点)により、下記表のようにショート/オープンさせることで、超音波を発振/停止させることができます。

| REM 端子-COM 端子間 | 超音波出力の状態 | 接続する信号線 |
|----------------|----------|--------------------------------|
| オープン | 停止します | リモートコントロール用信号線 (2 芯) ※シールド線 |
| ショート | 発振します | |

《注意》

REM 端子-COM 端子間に接続する外部接点信号は接点定格 DC12V、0.1A 以上の無電圧接点(スイッチやリレー接点等)を使用してください。

8-2. 異常出力機能の使い方

- ① 発振器背面にあるI/O端子台の AL0 端子、AL1 端子に、異常検出用信号線を接続します。信号線は、圧着端子を取り付け、端子台の M4 ネジで固定します。
- ② AL0 端子-AL1 端子間の接点状態(オープン/ショート)を確認することで、発振器の状態を監視することができます。(AL0 端子-AL1 端子はリレー接点出力です。)接点状態と発振器の状態の関係は、下記表の通りです。

| AL0 端子-AL1 端子間 (リレー接点出力状態) | 発振器の状態 | 接続する信号線 |
|-------------------------------|---------------|-------------------------|
| ショート | 正常状態 | 異常検出用信号線(2 芯) ※シールド線 |
| オープン | 異常状態または電源 OFF | |

《注意》

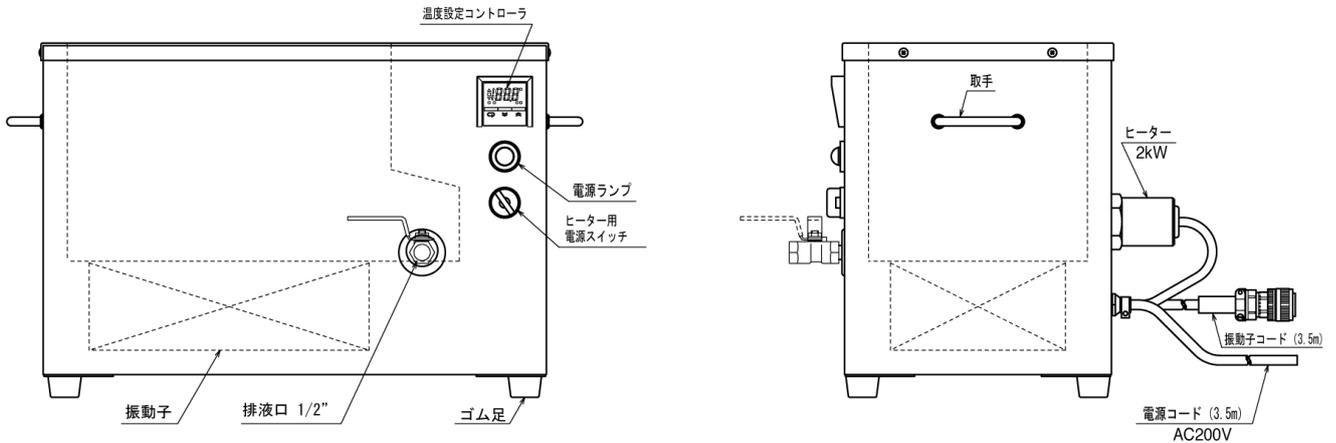
AL0 端子-AL1 端子間リレー接点定格は DC30V、0.5A です。定格を越えるような電圧・電流は故障の原因になりますので使用しないでください。

《両機能共通の注意事項》

- ・ ノイズによる誤動作防止のため、信号線は 10m以内のシールド付きケーブルを使用してください。
- ・ 異常検出用信号線とリモートコントロール用信号線を同一ケーブルで接続する場合は、4 芯シールド線等をお使いください。
- ・ ノイズ誘導抑制のため、信号線は電源コード、振動子コードおよびその他動力線と分離して配線してください。

9. ヒーター付洗浄槽の取り扱い

この章では、ヒーター付洗浄槽の取り扱いと特に必要な注意事項について説明しています。



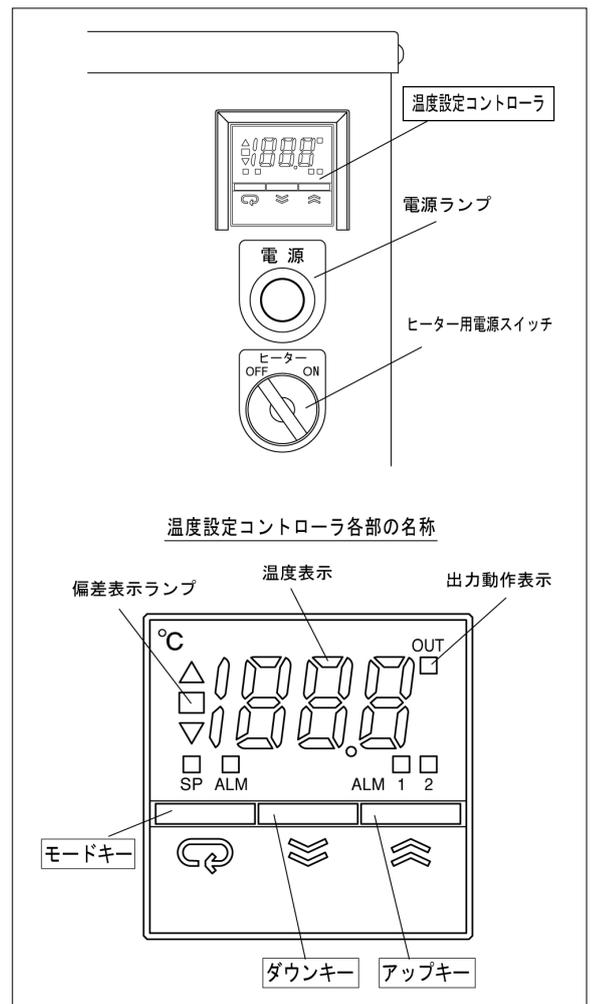
- (1) ヒーター用の 3 芯電源コードを接続します。
緑線をアースに接続し、他の 2 本を単相 AC 200V に接続してください。
- (2) 洗浄槽内に洗浄液を入れます。ヒーターの空焚き防止の為、槽内には、常時全体の 70% 程度以上の水位になるようにします。
- (3) ヒーター用電源スイッチを ON にし、電源ランプが点灯する事を確認します。
- (4) 温度設定コントローラの **モードキー** を押して、温度設定モードにし、**アップキー**、**ダウンキー** で任意の温度に設定します。
- (5) 設定が終了したら、**モードキー** を押し、現在の液温表示状態に戻します。
- (6) 設定温度になると、自動的にヒーターの動作を停止し、偏差表示ランプ中央の ■ 緑色ランプが点灯します。
- (7) 途中で温度設定を変更したい時は、(3)、(4) の作業を行います。



・偏差表示ランプは、設定温度より液温が高いと ▲ ランプが点灯し、低いと ▼ ランプが点灯します。また、設定温度になると、上下のランプが消え、中央の ■ 緑色のランプが点灯します。



ヒーター付槽は非常に高温になります。槽に手を触れたり、液に手を入れたりしないでください。火傷の原因になります。





注意

- ・ 温度設定コントローラのフロントドアを開けて内部のスイッチ変更はしないでください。故障につながる恐れがあります。
- ・ ヒーター電極部カバーやケーブル取出し口、温度設定コントローラ、電圧スイッチに水がかからないようにしてください。



- ・ 設定温度は 0～100℃まで設定できますが、安全を考えて極力 5～80℃の範囲でご使用されることをお勧めします。
- ・ ヒーターフランジ部はご使用中に錆が発生することがあります。被洗浄物で錆の影響を受けるものは、洗浄精度が低下する恐れがあります。
- ・ 一定温度で使用したい場合は冷却設備が必要になります。



分解禁止

- ・ ヒーター電極部のカバーは感電事故につながりますので外さないでください。

10. トラブルシューティング

本章では、異常または故障と考えられる状態が発生した場合の対処方法について説明します。

10-1. 異常表示機能

本装置は、装置内で発生した異常状態を検出・表示し、超音波発振を自動停止する機能があります。その異常状態は、発振器正面パネルの表示画面にエラーメッセージとして表示されますので、異常が発生した場合は、エラーメッセージを確認して、下記の表を参考に適切な処置を行ってください。

《注意》

本機能は電源スイッチを OFF にすると異常表示がリセットされます。従いまして、必ず電源スイッチを OFF する前に異常表示内容をご確認してください。

| エラーメッセージ表示 | 異常種類 | 原因 | 処置方法 |
|------------|----------|---|---|
| Short Load | 短絡負荷アラーム | 発振器～振動子ユニット間の振動子コード配線経路のどこかで短絡している。 | 振動子コードのすべての配線経路において短絡がないか確認してください。 |
| | | 結露または液漏れ等により振動子または端子接続部に液体が付着して絶縁抵抗が低下している。 | 振動子ユニットの振動素子または端子接続部に液体が付着していないか確認してください。その後、状況に応じて液漏れの処置あるいは湿気のない環境にて使用してください。 |
| | | 振動素子が短絡モードで故障している。 | 発振器IDラベルに記載のID番号と同じID番号の振動子ユニットに交換してください。 注) |
| Open Load | 開放負荷アラーム | 発振器～振動子ユニット間の振動子コード配線経路のどこかで断線または未接続である。 | 振動子コードのすべての配線経路において断線または未接続がないか確認してください。 |
| | | 振動子コードコネクタが発振器に未接続である。 | 振動子コードコネクタを発振器に接続してください。 |

注) 当社営業所または販売店にご連絡ください。

| エラーメッセージ表示 | 異常種類 | 原因 | 処置方法 |
|----------------|---------|---|--|
| Overpower | 過電力アラーム | 発振器 ID ラベルに記載の ID 番号と異なる番号の振動子ユニットが接続されている。 | 同じ ID 番号の振動子ユニットに交換してください。 注) |
| | | 振動子が劣化または故障している。 | 発振器 ID ラベルに記載の ID 番号と同じ ID 番号の振動子ユニットに交換してください。 注) |
| Overcurrent | 過電流アラーム | 発振器 ID ラベルに記載の ID 番号と異なる番号の振動子ユニットが接続されている。 | 同じ ID 番号の振動子ユニットに交換してください。 注) |
| | | 振動子が劣化または故障している。 | 発振器 ID ラベルに記載の ID 番号と同じ ID 番号の振動子ユニットに交換してください。 注) |
| Overvoltage | 過電圧アラーム | 発振器 ID ラベルに記載の ID 番号と異なる番号の振動子ユニットが接続されている。 | 同じ ID 番号の振動子ユニットに交換してください。 注) |
| | | 振動子が劣化または故障している。 | 発振器 ID ラベルに記載の ID 番号と同じ ID 番号の振動子ユニットに交換してください。 注) |
| Temperature AL | 温度アラーム | 発振器の周囲温度が 40°C を超えている。 | 周囲温度が 40°C 以下の環境に設置して使用してください。 |
| | | 発振器冷却のための通気確保が十分でない。 | 通気確保のための十分な空間を設けて風通しを良くしてください。 |
| | | ファン吸気口およびファン排気口がほこり・油などの障害物で塞がれている。 | 発振器前面および背面の通気口に付着したほこりやちりなどのよごれを定期的に取り除き、風通しを良くしてください。また、ほこり、油などの発生量が多い環境での使用は避けてください。 |
| | | DCファンが止まっている | 当社営業所または販売店にご連絡ください。 |
| Circuit AL | 回路アラーム | 発振器 ID ラベルに記載の ID 番号と異なる番号の振動子ユニットが接続されている。 | 同じ ID 番号の振動子ユニットに交換してください。注) |
| | | 発振器内部の部品に起因する問題。 | 当社営業所または販売店にご連絡ください。 |

注) 当社営業所または販売店にご連絡ください。

10-2. その他症状のトラブルシューティング

| 症状 | 原因 | 処置方法 |
|--|---|--|
| 超音波発振しない。 →表示画面が表示しない場合 | 発振器背面の電源スイッチがOFFである。 | 発振器背面の電源スイッチをONにしてください。 |
| | 一次側電源ラインの接続が適切でない。 | 『6-1. 発振器の設置と電源コードの接続方法』を参照して、発振器に電源電圧を供給してください。 |
| | 発振器内部の部品に起因する問題。 | 当社営業所または販売店にご連絡ください。 |
| 超音波発振しない。 →ALARM ランプが点灯している場合 | 異常発生しているため、超音波が発振しない。 | 『10-1. 異常表示機能』を参照して、異常内容を確認し適切な処置を行ってください。 |
| 超音波発振しない。 →START/STOP スイッチにより超音波が発振/停止しない場合 | リモートコントロール機能が有効 (REMOTE ランプ点灯) になっているため、START/STOP スイッチによる発振/停止ができない。 | 発振器背面の REMOTE 設定スイッチをOFFにして、リモートコントロール機能を無効 (REMOTE ランプ消灯) にしてください。 |
| 超音波発振しない。 →リモートコントロールにより超音波が発振/停止しない場合 | リモートコントロール機能が無効 (REMOTE ランプ消灯) になっているため、リモートコントロールによる発振/停止ができない。 | 発振器背面の REMOTE 設定スイッチをONにしてリモートコントロール機能を有効 (REMOTE ランプ点灯) にしてください。 |
| | リモートケーブルが断線または接続が適切でない。 | リモートケーブルについて、発振器背面I/O端子台のREM端子、COM端子への接続およびお客様コントローラへの接続が適切かを確認してください。 |
| 超音波発振するが出力が弱い。 | パワー設定がMINになっている。 | パワー設定つまみを右側に回して、出力を上げてください。 |
| | 電源電圧が適切でない。 | 発振器定格電圧単相 200V～240V の範囲の電圧を供給してください。 |

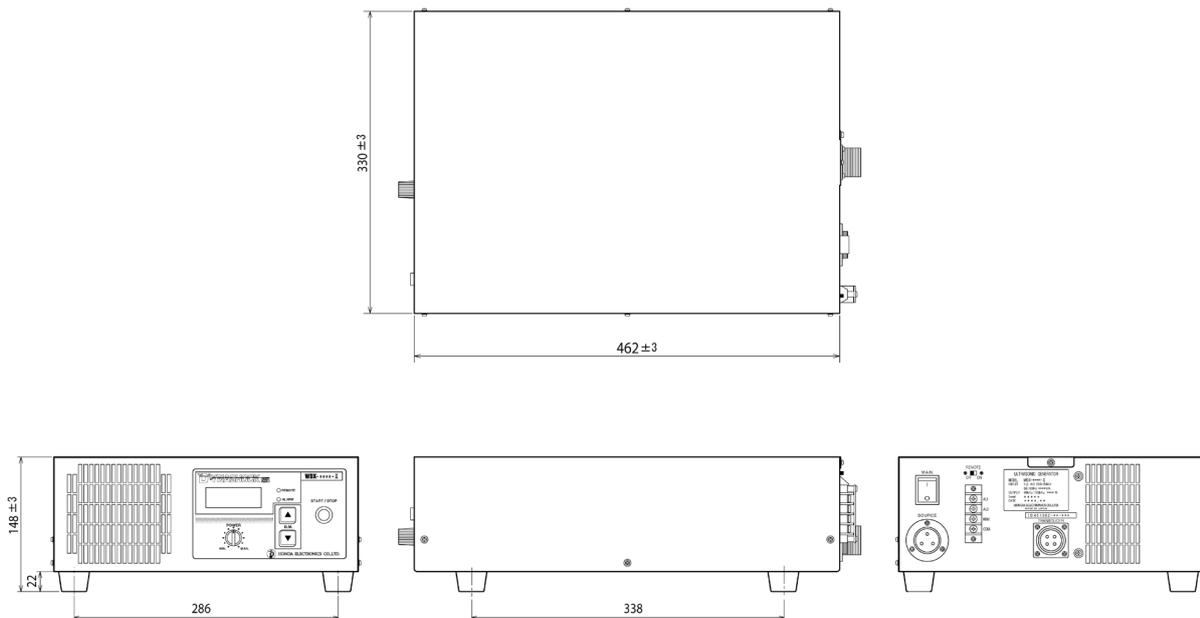
- 上記の様な点検をしても正常動作しない場合には、すみやかに使用を中止して、当社営業所または販売店にご連絡ください。
- お客様にてご指示以外の処置をされた場合、当社では責任を負いかねますのでご注意ください。
また、保証期間内であっても有償修理扱いとなりますのでご注意ください。

11. 仕様

■発振器仕様

| | | |
|---------------------|--------------|---|
| 型名 | | WDX-600-II |
| 電源入力 | | AC200V～240V±10% 単相 50/60Hz |
| | | 1.45kVA |
| 定格出力電力 | | 600W |
| 出力調整範囲 | | 0～100% |
| 公称発振周波数 | | 40kHz、120kHz |
| 発振方式 | | 電力比率変調型2周波同時発振方式(DM方式) |
| 発振機能 | | DM 変調度 0～100% Sweep あり/なし |
| 表示機能 | | 出力電力[W]、DM 変調度[%]、エラーメッセージ |
| I/O 機能 | リモートコントロール機能 | <ul style="list-style-type: none"> ・REM 端子-COM 端子間ショート: 超音波発振 ・REM 端子-COM 端子間オープン: 超音波停止 |
| | 異常出力機能 | <ul style="list-style-type: none"> ・正常時: AL1 端子-AL0 端子間ショート ・異常時または電源 OFF: AL1 端子-AL0 端子間オープン (接点定格: AC125V/DC30V、0.5A) |
| 使用周囲環境 | | 温度: 5～40°C/相対湿度: 5～80%RH (ただし、結露無きこと) 屋内使用、高度 2000m 以下 (汚染度 2、過電圧カテゴリー II) |
| 外形寸法[mm] (W×D×H) | | 330×462×148 (D 寸法: 突起部分を除く/H 寸法: ゴム足含む) |
| 質量 | | 約 11kg |

■WDX-600-II

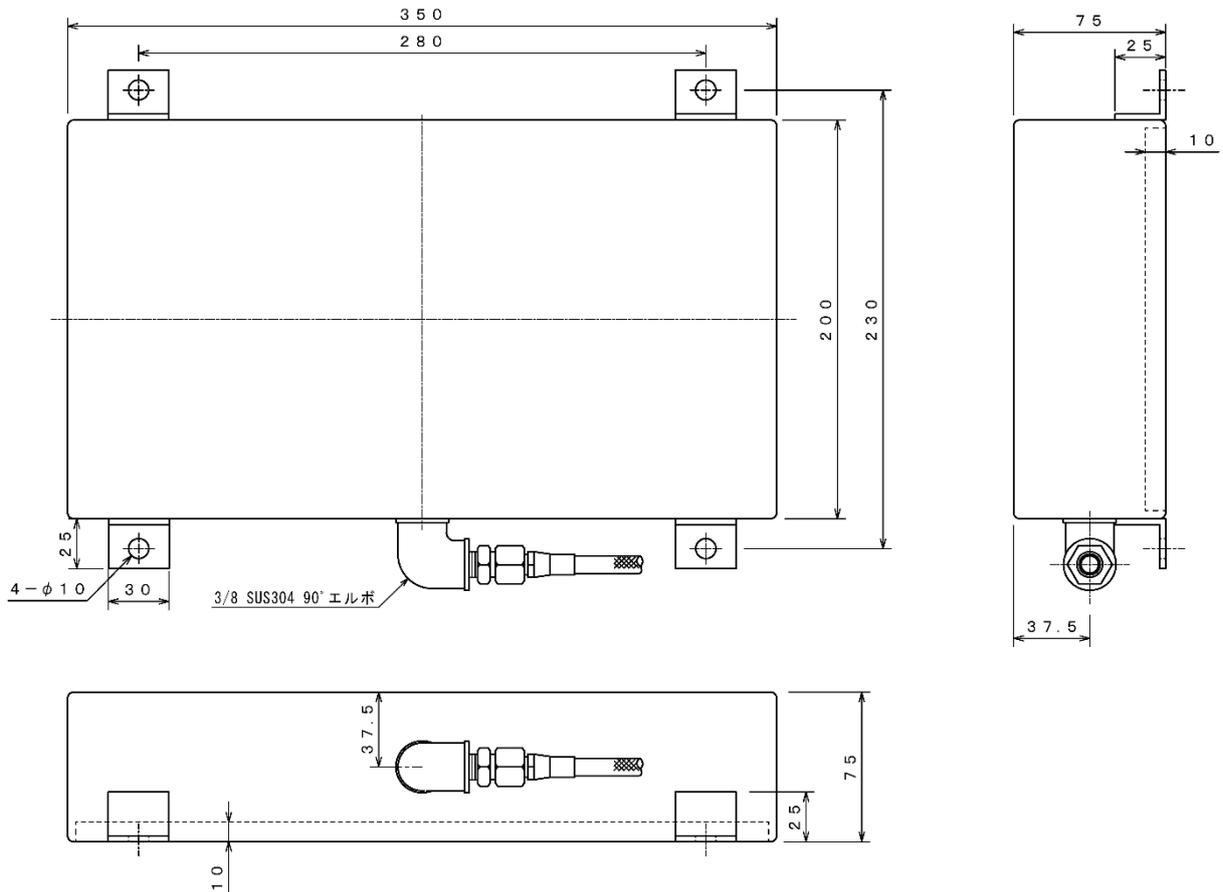


■振動子ユニット仕様

投込タイプ標準仕様

| | |
|-------------------|----------------------------------|
| 型名 | N06-DX2 |
| 許容入力電力 | 600W |
| 公称共振周波数 | 40kHz、120kHz |
| 振動子 | ボルト締めランジュバン型振動子 |
| 使用液温度 | 5°C~80°C |
| 振動板材質 | ステンレス鋼 SUS-304(特注にて SUS316L 対応可) |
| 振動放射面処理 | 硬質クロムメッキ |
| 寸法[mm] (W×D×H) | 350×200×75 |
| 質量 | 約 11kg |
| 振動子コード | 2.5m(ブレード部 2m) + 出力コード 3.5m |

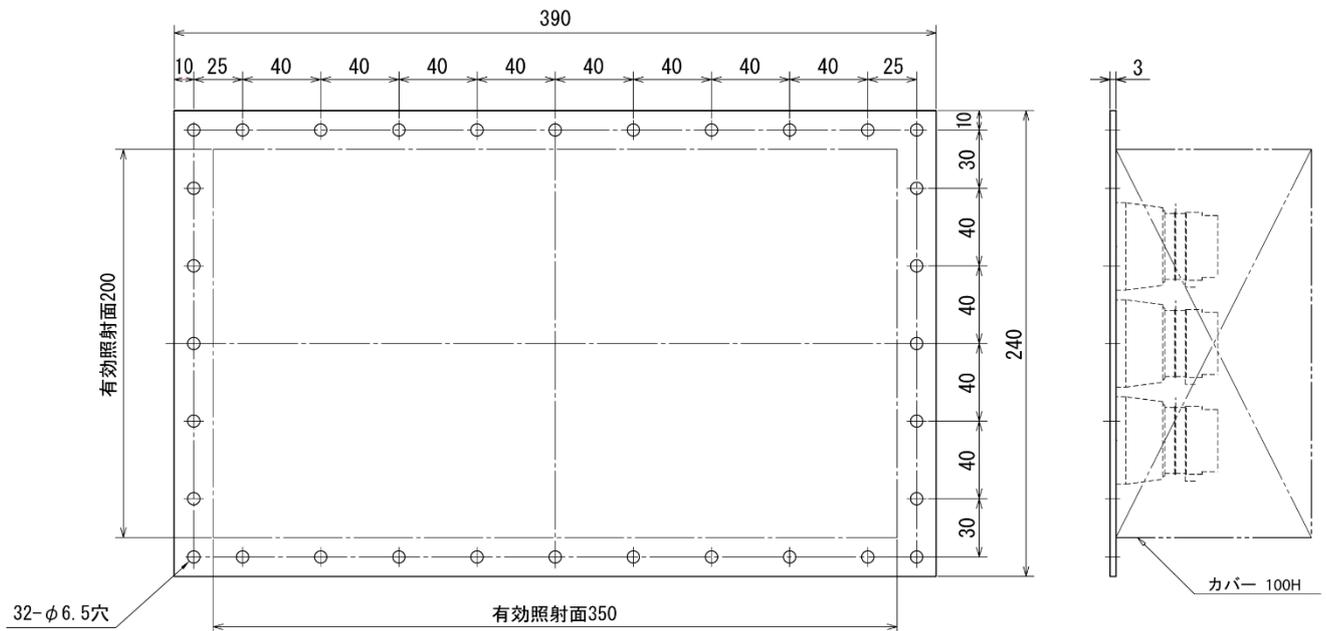
■N06-DX2



振動板タイプ標準仕様

| | |
|-------------------|---------------------------------------|
| 型名 | F06-DX2 |
| 許容入力電力 | 600W |
| 公称共振周波数 | 40kHz、120kHz |
| 振動子 | ボルト締めランジュバン型振動子 |
| 使用液温度 | 5°C～100°C |
| 振動板材質 | ステンレス鋼 SUS-304(特注にて SUS316L、ハステロイ対応可) |
| 振動放射面処理 | 硬質クロムメッキ |
| 寸法[mm] (W×D×H) | 390×240×56.5 |
| 質量 | 約 8kg |
| 振動子コード | 3.5m + 出力コード 3.5m |
| パッキン材質 | EPDM t=3mm(特注にてバイトン等対応可) |

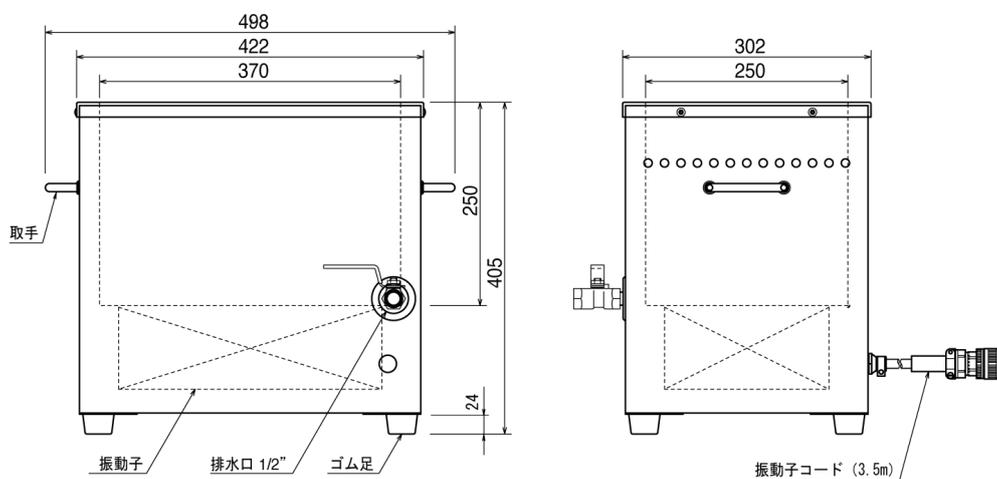
■ F06-DX2



槽タイプ標準仕様

| | |
|---------------------|----------------------------------|
| 型名 | S06-DX2 |
| 許容入力電力 | 600W |
| 公称共振周波数 | 40kHz、120kHz |
| 振動子 | ボルト締めランジュバン型振動子 |
| 使用液温度 | 5°C～100°C |
| 洗浄槽材質 | ステンレス鋼 SUS-304(特注にて SUS316L 対応可) |
| 内槽寸法[mm] (W×D×H) | 366×246×248 (23L) |
| 外形寸法[mm] (W×D×H) | 422×302×405 (ゴム足含む) |
| 質量 | 約 19kg |
| 振動子コード | 3.5m |

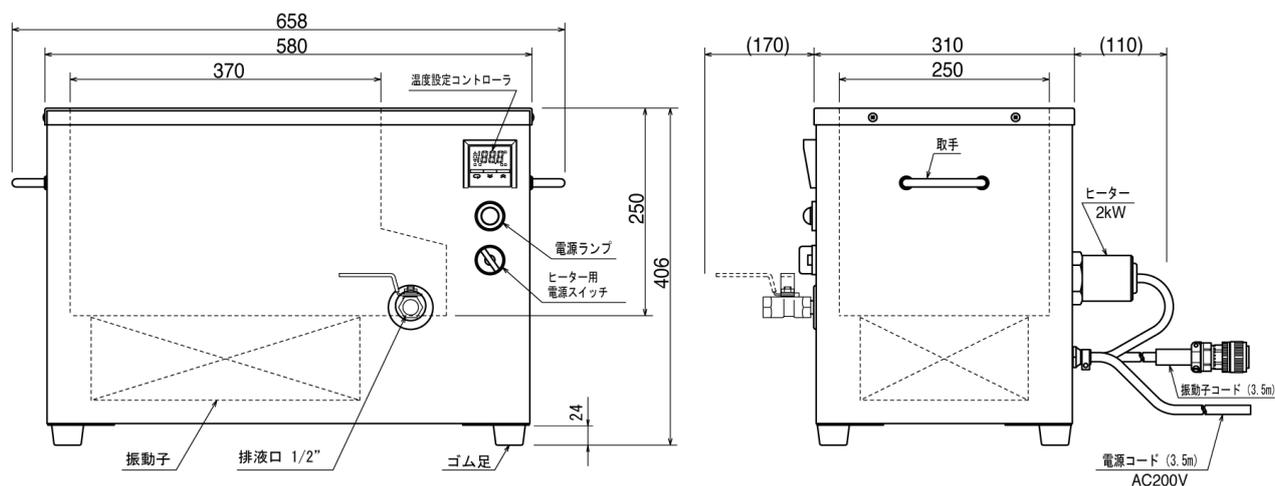
■ S06-DX2



ヒーター付槽タイプ標準仕様

| | |
|---------------------|----------------------------------|
| 型名 | SH06-DX2 |
| 許容入力電力 | 600W |
| 公称共振周波数 | 40kHz、120kHz |
| 振動子 | ボルト締めランジュバン型振動子 |
| 使用液温度 | 5°C~100°C |
| 洗浄槽材質 | ステンレス鋼 SUS-304(特注にて SUS316L 対応可) |
| 内槽寸法[mm] (W×D×H) | 370×250×250 (23L) |
| 外形寸法[mm] (W×D×H) | 580×310×406 (ゴム足含む) |
| 質量 | 約 25kg |
| 振動子コード | 3.5m |
| ヒータ容量 | 2kW |
| ヒータ電源電圧 | AC200V 単相 50/60Hz |

■ SH06-DX2



12. アフターサービス

■ 保証について

保証期間：お買い上げ後 1 年間、または稼働 2,000 時間の短い方です。

（修理後の保証期間は、同一症状の故障に限り、修理後、6 ヶ月です）

ただし、ヒーターおよび振動子ユニットのエロージョンは保証の対象外です。

保証書には必ず「お買い上げ日、販売店名、製造番号」などの記入があることをお確かめの上、本書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。

保証書に必要事項が記載されていない場合、たとえ保証期間中であっても有償となる場合があります。

■ 無償修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付のラベルの注意書に従った正常な使用において故障した場合には、無償で修理をいたします。
2. 保証期間内に故障して無償修理を受ける場合は、商品に保証書を添えて、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。（保証書は本書の裏面に印刷されています）
3. やむをえずお買い上げ販売店に修理が依頼できない場合 ご転居、ご贈答等 は、当社までご相談ください。
4. 保証期間内でも次のような場合には有償になります。
 - ・使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - ・お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷
 - ・火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - ・保証書の提示がない場合
 - ・保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
 - ・付属品または消耗部品の交換
 - ・発振器と振動子ユニットが指定の組合せでないことに起因する故障および損傷
5. 保証は日本国内においてのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)
6. 本製品の修理に必要な部品の保有期間は、原則として製造打ち切り後、7 年です。
7. この商品について出張修理をご希望の場合には、出張に要する実費を申し受ける場合があります。
8. 無償修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または当社へお問い合わせください。

■ 修理を依頼される時

本書の「トラブルシューティング」にしたがって調べていただき、直らない場合は次のようにしてください。

・保証期間中

製品に本書を添えてお買い上げの販売店にご依頼ください。

※保証期間中でも有償修理になる場合があります。

・保証期間が過ぎているとき

お買い上げの販売店にご依頼ください。修理可能な製品については、ご希望により有償で修理致します。

※ 修理を依頼される場合、故障内容と故障箇所、機械の症状、使用状況等を出来るだけ詳しくお知らせください。

お願い

本書の内容について不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら
お手数ですが当社までご連絡ください。

| | | | | |
|---|----------|------------------|-------|--|
| <h1 style="text-align: center;">保証書</h1> <p style="text-align: center;">保証期間 お買い上げ年月日より1年 または稼働 2000 時間 の短い方</p> <p>本多電子株式会社</p> | 機種名 | | 製造番号 | |
| | お買い上げ年月日 | | 年 月 日 | |
| | お客様 | 会社名 または 氏名 | 電話 | |
| | | 住所 | | |
| 販売店 | 店名 住所 | 電話 | | |

WDX-600- II

複製を禁ず



本多電子株式会社®

本 社 〒441-3193 愛知県豊橋市大岩町小山塚 20

代 表 TEL (0532) 41-2511 FAX (0532) 41-2093

産業機器事業部 TEL (0532) 41-2515 FAX (0532) 41-2923

中部営業所 TEL (0532) 41-2515 FAX (0532) 41-2923

東京営業所 〒107-0052 東京都港区赤坂 9 丁目 6-28 アルベルゴ乃木坂 404 号

TEL (03) 3479-4148 FAX (03) 3423-1795

大阪営業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 4 丁目 1-45 新大阪八千代ビル 3F

TEL (06) 6399-6073 FAX (06) 6399-6083

カスタマーサービスセンター

〒441-3193 愛知県豊橋市大岩町小山塚 20

本多電子株式会社 カスタマーサービスセンター

TEL (0532) 41-2582 FAX (0532) 41-2996

ホームページ <https://www.honda-el.co.jp/>

- この取扱説明書は 2026 年 1 月現在のものです。
- 商品改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。